

オイルレスエアークンプレッサー

MODEL

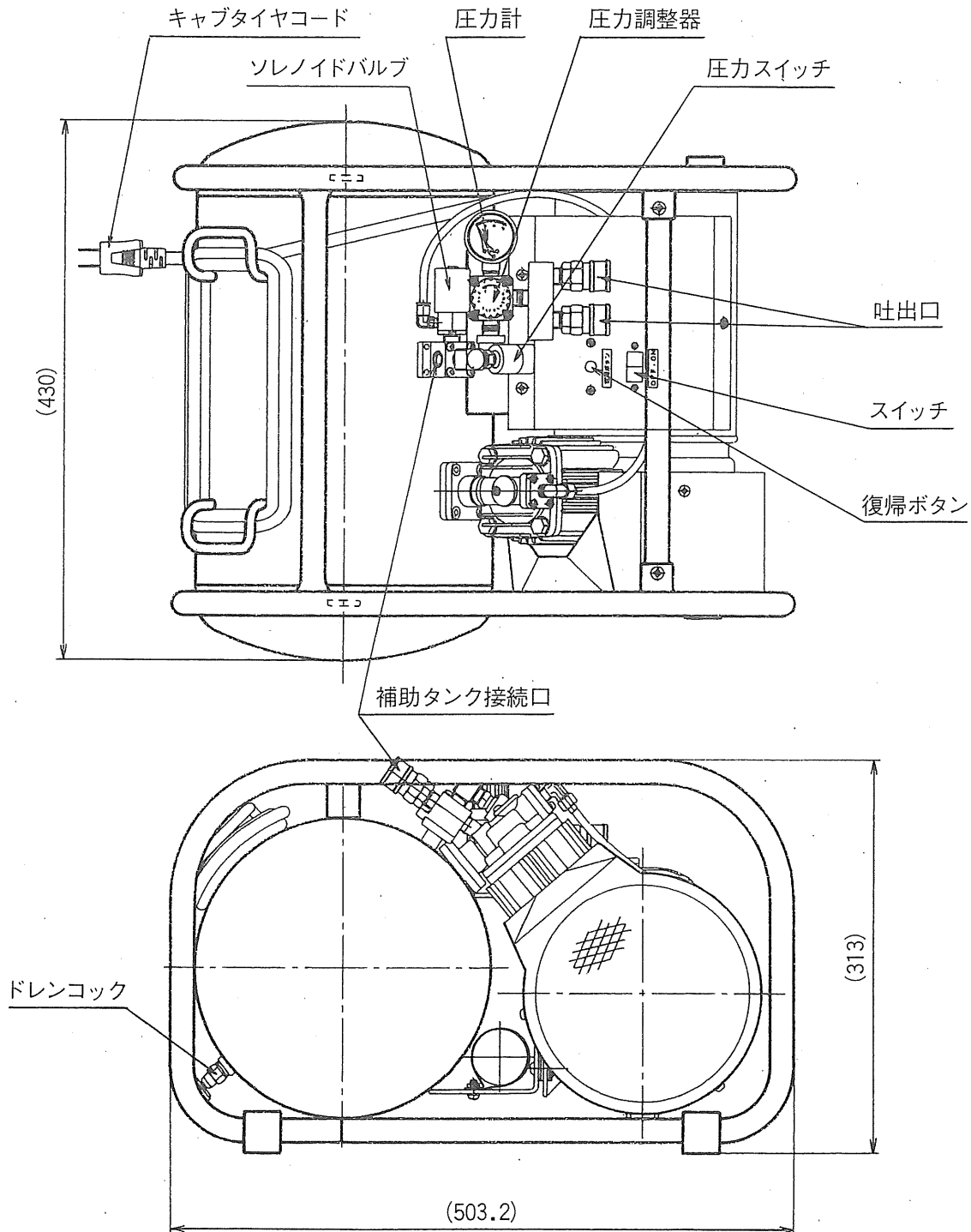
YMD1-P5/6S

取扱説明書

AMADERA KUATSU KOGYO CO., LTD.

ご使用に先だち、この取扱い説明書をよくご覧のうえ、適切な取り扱いと保守をしていただいで本機の性能を十分発揮され、いつまでも能率よくお使い下さいますようお願いいたします。

1. 各部の名称とその機能



型式	最高使用 圧力	ボア×スト ローク×気 筒数	ピストン 押し除け 量(P.D)	実吐出量	回転数	モーター 出力	重量	制御方法	タンク 容量
YMD1 -P5S	9 kg/cm ²	58×36×1	135ℓ/min	85ℓ/min	50Hz 1420rpm	0.75kW 100V	31kg	圧力スイ ッチ方式 ON :7.7 OFF:9	18ℓ
YMD1 -P6S		58×33×1	150ℓ/min		60Hz 1730rpm				

実吐出量は 7 kg/cm²時に吐出する空気量を吸込状態に換算した値です。

2. 運転準備

2-1 設置について

- (1) 圧縮機の運転、保守点検の容易な十分なスペースのある所に設置して下さい。圧縮機を良好な状態で使用するには日常の点検と定期的な整備が大切です。狭く暗い場所に設置しますと、日常点検がおろそかになり、異常に気付かず事故になることもあります。
- (2) 地盤が水平で安定のよい所に設置して下さい。設置した場所が凹凸の多い所ですと振動の原因となります。
- (3) 清浄な空気が吸入できる場所に設置して下さい。ほこりの多い所ではフィルターの目詰りにより空気量の低下やシリンダの摩耗、ベアリングの寿命を短くします。
- (4) 室温が40℃を超えるところは換気扇を付けて下さい。室温が上昇しますと吐出温度が上昇、圧縮機各部の寿命に悪影響をおよぼします。
- (5) 近くに引火性、爆発性のもの（アセチレン、プロパンガス、シンナー、塗料など）のない場所に設置して下さい。
- (6) 湿気はモータなどの電気絶縁性を低下させ、感電事故のもとになります。雨中、濡れた所、湿った所、機械内部に水や油の入りやすい場所では使用しないで下さい。
- (7) 万一の感電事故を防止するために、ゴム手袋、ゴム長靴の着用および感電防止用の漏電しゃ断器の設置された電源に接続されることをおすすめします。

2-2 配 線

適切な配線を行わないと電動機焼損等の事故となりますので、次の点にご注意下さい。

(1) 配線容量(配線長さ30m以下)

出力 kW	電 源	配 線 容 量			
		配線最小太さ(mm)	アース線最小太さ(mm)	手元ヒューズ容量(A)	電源スイッチ容量(A)
0.75	単相 100V	2.0	2.0	30	30

(2) 電圧事情の悪い場所、また配線長さがさらに長くなる場合は、1段階太い線をご使用下さい。

(3) アースは必ず取って下さい。

3. 運 転

3-1 運 転

- (1) ドレンコックの締りを確認し、スイッチを入れ運転して下さい。
- (2) 規定圧力に達すると圧力スイッチによりモーターが止まります。
規定圧力まで下がるとモーターは再起動致します。

3-2 運転時の注意事項

- (1) 運転中および直後の吐出管やシリンダ周辺は、空気の圧縮熱のため高温になっています。素手で触れないよう十分ご注意下さい。また運転直後に運搬するときは身体が触れないようご注意下さい。
- (2) 運転中に機械の異常に気づいた場合、特に安全弁が作動したときには、すぐにスイッチを切り、点検または修理に出して下さい。
- (3) ご使用後や機械から離れるときは必ずスイッチを切り、プラグを電源から抜いて下さい。また停電の際も必ずスイッチを切り、プラグを電源から抜いて下さい。

3-3 停止

- (1) スイッチを切って下さい。
- (2) ドレンコックを開放し、ドレンの空気を排出して下さい。

4. 定期点検と整備

手動式オートカット

モーターに過負荷が加わった場合、モーター焼損防止用オートカットが作動し、電源を切ります。原因調査の上、電源を復帰させる場合はスイッチを切ってからオートカットボタンを“カチ”と音がするまで押して下さい。

保守・点検

点 検 項 目	要 領 処 理	点 検 整 備 時 間				
		毎 日	250 時間毎	4,000 時間毎	5,000 時間毎	8,000 時間毎
ド レ ン 抜 き	空気タンク内のド レンを排出する	○				
異常振動・異音など		○				
ボルト・ナット・ネジ 類 の 緩 み	緩みのある場合は 増し締め		○			
吸 込 る 過 器 詰 物 の 汚 れ , 目 詰 り	詰物をエアーク 吹き 中性洗剤で洗浄		○			
ウエアーリング					⊗	
ピストンリング					⊗	
バ ル ブ E X I N						⊗
軸 受						⊗

- 〈注〉 ① ○印は運転開始後、⊗印は部品交換時期。
 ② 表に掲げた時間は、標準的な使用の場合です。
 使用状態が過酷な場合は、点検時期を短かくして下さい。
 ③ 長期使用しない場合、湿気などによりグリース寿命が低下しますので、月に1度30分位無負荷にて運転して下さい。

定期点検

現象	原因	手当法	
起 動 す	圧力が上昇しない または 圧力の上昇に時間 がかかる	ドレン抜き、止メ弁の洩れ	締めても洩れる場合は交換
		パッキン、ネジ、シール不良	増締め、パッキンの交換
		空気弁の不良	清掃、又は交換
		ピストンリングの摩耗	新品と交換
		電動機の回転が落ちる	電圧の降下
る	最高圧力以上に上昇	圧力スイッチ作動不良	調整又は交換
	異常音がする	軸受の不良	サービスステーションで修理
		設置不良	水平な床面に設置
	電動機が過熱する	摺動部の焼付	サービスステーションで修理
電動機の異常		サービスステーションで修理	
起 動 し な い	電動機がうならない	配線の断線	配線を交換
	電動機がうなる	電圧降下	配線を規定のものに交換
		空気弁の洩れ	新品と交換

 尼寺空圧工業株式会社

本社工場 〒144 東京都大田区西六郷2丁目50番12号 TEL 03(3733)5521(代) FAX 03(3733)5586
茨城工場 〒300-11 茨城県牛久市久野町2631